

氏名（本籍）	鯨井 正子（茨城県）
学位の種類	博士（音楽教育学）
学位記番号	乙第5号
学位授与年月日	平成29年3月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項
学位論文題目	童謡レコードの教育的意義
学位論文等審査委員	
（総合審査）	委員長 教授 神原 雅之
	教授 山本 幸正
	教授 阪上 正巳
	教授 横井 雅子
	教授 吉成 順
（論文審査）	委員長 教授 神原 雅之
	教授 阪上 正巳
	教授 横井 雅子
	教授 吉成 順
	本多 佐保美（千葉大学教育学部教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 鯨井正子の学位申請論文に関して厳正に審査を行った。以下に、

1. 論文審査、
2. 総合審査、に関する所見を記す。

1. 論文審査

本学位申請論文は、昭和前期における童謡レコードの教育的意義について考察した論考である。とりわけ、童謡レコードが学校音楽教育と家庭に及ぼした影響について焦点をあてて考察した。申請者は、従来ほとんど顧みられることが少なかった童謡レコードの教育学的な意義について検討するために、当時の雑誌やレコードの発行記録など、多種多様な一次資料を取り上げ、それらについて丹念に読み込みを行った。その膨大な資料分析を通して、そこから得られた事実を視覚化した点も評価される。分析に費やしたエネルギーは想像を超えるものであったと推察され、そうした努力の蓄積は敬意に値するものである。

本研究は、大きく3つの部分によって構成されている。第1部では、社会的状況に触れながら、逐次発行された新譜童謡レコードの特徴や、それらが学校音楽教育における使用の実態に迫った。第2部では、数種類の雑誌の分析を通して、学校教育における唱歌教育や音楽鑑賞教育の実態について、さらに童謡レコードで取り上げられた童謡歌手の特徴についても言及した。第3部では、当時のレコード会社の資料その他に基づき、童謡レコードが家庭の中でどのような役割を担っていたのかという点について論究している。

昭和前期（昭和元年～昭和20年）の学校音楽教育では、明治時代から進められてきた官主導による唱歌教育の改善に取り組んでいた。学校音楽教育は、明治33年以降実施されてきた小学校令によって実践されてきたが、時代的な変化の中で、昭和16年には国民学校令が施行され、教育内容の変更が行われることとなった。そうした緊迫した社会状況の中で、民間レベ

ルでもさまざまな音楽教育の取り組みが行われてきた。そうした動きは、官主導による唱歌教育の実践に少なからず影響を与えてきたと言える。言い換えるなら、本研究のユニークな点は、昭和前期という時代性に焦点をあて、童謡レコードの発行・普及という民間主導による音楽教育の取り組みが、学校音楽教育や家庭における音楽的なかわりに少なからぬ影響を及ぼしたことを、緻密なデータを基に明らかにした点にあると言える。

本論文は、長大な労作である。その情報量の多さゆえに、見い出されたことも少なくないのだが、その半面で冗長に感じ取られることもある。審査委員からは、本研究の存在意義を認めつつも、さらに深い言及や情報量の整理を行うことによって完成度が高まるだろうという意見があった。

ともあれ、本研究は、民間主導による音楽教育の動きと学校教育、そして家庭と学校音楽教育のかかわりについて、ミクロな観点から点描した。当時社会で普及した童謡レコードの存在をクローズアップさせることによって、従来の学校音楽教育（唱歌教育）実践に対する一面的な見方を補完し、鑑賞教育への導入的役割をも担っていたことを明らかにした。これらの点は、本論文の学術的な意味合いをより際立たせていると言える。論文審査委員会では、これらを統合して高い評価のもとに、判定を示した。

2. 総合審査

音楽教育学における歴史的研究において、時代的特性を示す一時資料を丹念にあたることによって見えてくることがある。本論文は、従来ほとんど着目されてこなかった童謡レコードに着目し、教育学的意義を浮かび上がらせようと試み、それを成功に導いている。この手法は、研究モデルとしての価値を見いだすことができ、独創性に優れていると評価される。

学位論文審査委員会においては、論文審査を総合して、きわめて高い評価のもとに、これを博士（音楽教育学）**Doctor of Philosophy in Music Education** の学位を授与するにふさわしいものと判定する。